



徳島大学での留学生活

工学部 特別聴講学生
黄建誌 (コウケンシ) [台湾]

台湾科技大学から来た交換留学生の黄建誌といます。以前から日本のことに興味がありました。大学二年生のとき、日本台湾学生会というサークルに参加したのをきっかけに、日本人留学生と交流するようになりました。その日本人の友達から様々な日本に関する情報を得て、いつか日本で生活してみたいと思いました。四年生のときに海外への留学のチャンス



サマープログラムに参加した留学生と一緒に
(筆者は最後列)



共通教育「日本語」の授業でクラスメイトの留学生と(筆者は後列右から2人目)



地域のボランティア活動で、ゆずがっばと

があり、迷わず日本を選びました。2015年4月から徳島大学に留学しています。台湾の大きな街に住んでいた私にとって、自然が豊かな徳島で生活するのはとても良い経験になっています。寮から学校までの距離が少し遠いので、毎日自転車通勤するのは大変です。でも、自転車をこぎながらきれいな風景を楽しむのは気持ちがいいですし、身体も鍛えられます。徳島大学では留学生向けの日本語の授業だけでなく、専門や共通教育の科目も履修しています。クラスでは、先生は授業の内容を黒板に書きながら説明したり、スライドを使って講義をしたりします。学生は先生の話を聞きながらノートをとります。授業のスタイルは台湾と同じですが、授業の内容を完全に聞き取るのはとても難しいです。しかし、分からないところをクラスメイトに聞くと、みんな親切に教えてくれるので、本当に助かっています。日本人は協調性

を重視しグループワークを大切に
する人たちと言われていますが、
日本人学生と一緒に協力し授業の
課題を成し遂げることで、グルー
プワークの大切さを学ぶことがで
きました。
留学生のためのイベントや見学
旅行にも参加しています。これら
の活動では地元の人や日本人学生
と交流できる機会がたくさんあり、
日本の文化や人情などが実感でき、
大変勉強になります。日本に来る
前に知っていた日本と今徳大で交
換留学している私が見ている日本
は、ずいぶん違います。台湾で得
た日本の情報は東京や大阪などの
都会にすることが多く、他の地
域はかなり少ないです。日本は地
域ごとに人々の生活スタイルが異
なり、祭りのような独特な文化も
あり、台湾との違いを感じていま
す。
あと3カ月で徳大での留学生活
が終わります。でも、日本語と日
本文化を学ぶことに加えて、日本
でしてみたいことがまだ沢山あり
ます。もっと日本の文化を学んだ
り、本を読んだり、旅行をしたり
して、後悔のない留学生活をした
いです。そして、台湾へ帰った後、
留学から得たものを周りの人に伝
えたいと思っています。

未来のため若い力が もっと発揮されますように

保健管理・総合相談センター総合相談部門長教授
前田健一 (まえだけんいち)

**自由に勉学
できることの
奇跡**

いま世界のいたるところで内戦、テロ、独裁、差別、宗教紛争、飢饉、食糧難、貧困等の問題でまともな学習環境を得られない子供たちが無数に存在しています。さらに大学に入学する能力を持ち、自由に勉学する環境を得られている学生は、いまや奇跡的に恵まれた存在であると言ってもいいかもしれません。しかし多くの学生がそうした環境にあることを自覚し充実した気持ちで学生生活を送っているかと言えれば必ずしもそうではないように思えます。

求めない世代

今の学生は、自ら求めなくても周りから必要なものは与えられてきた世代であり、その一方で少しずつ生活に余裕がなくなり、経済的縮小傾向を常に受け入れることを余儀なくされてきた世代でもあります。さとり世代とか草食系と言われ、まじめで素直ではあるものの、積極的に何かを追究したり冒険することをあまり望まないように思われます。これも彼ら自身の問題というより時代が押し付けてきた状況への適応なのかもしれません。今日よりよい明日が見いだせない時代の中で夢やモチベーションを保つことは簡単ではないでしょう。

**科学は人に
幸福を
もたらしたか**

科学の発展は人々の生活を便利なものにし経済的豊かさを与えてきました。一方で地球温暖化や環境破壊を引き起こし、いまや地球を破壊の淵に追いやるようにしています。現在は恐竜が絶滅した時代に匹敵する生物大絶滅期に入ったともいわれ、世界終末時計は人類絶滅まであと5分に迫っています。しかし科学が引き起こした問題を解決するのはまた科学でしかなく、人工知能、ロボット、新素材開発、環境関連技術などやるべきことは無限にあります。さ

らに農業や漁業の再生・活性化は人類の生存危機に直結しており待ったなしの状況です。不安な時代こそ希望の時代への転換点であり、ここで若い力が発揮されなければ未来はないと思います。